

8月27日 園内研修での話し合い

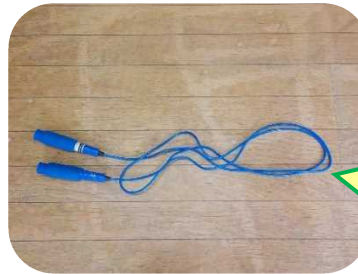
年長5歳児 そう組

「目標に向かって、友達と一緒にやってみようとする姿」

<8月 運動会に向けて～頑張っているところを見てもらおう～>

<教師のねがい>

- ・得意なことに自信をもって取り組む
- ・得意と感じることを増やす
- ・友達のよさや得意なことに気が付く
- ・諦めずに最後まで頑張る



短縄跳びに興味を持ち始めていたタイミングで、年長組の個人持ちの縄跳びを購入しました。

「うまくできなくて、頑張って踊ろう！」(深い学び)

よさこいの様子



「毎日練習したらできるようになったよ！」(深い学び)

「走るのが得意になったし、踊りだって、やってみよう。」(主体的)

「〇〇ちゃん、毎日練習しているなあ。」(対話的)

繰り返しチャレンジする縄跳びの様子

遊びの経過・どのような姿が、どのようにになって、一歩踏み出したと感じたか？

走ることに自信をもち、繰り返し楽しむ中で、諦めないで走る姿や、チームのみんなを応援する姿にも気が付いて認め合うようになっていった。縄跳びや踊りは、うまくできな感じていた幼児が多いが、リレーや長縄など体を動かす遊びをたくさん経験し、自信をもったことで苦手意識が徐々に薄れていった。また、運動会でみんなに格好いいところを見てもらいたいという目標をもつことで、うまくできなくてもまずは「やってみよう。」という気持ちに繋がったのではないかな。

<見取った幼児の姿>

主体的

- ・運動会でみんなに格好いいところを見てもらおうという気持ちをもつようになる。
- ・うまくできなくても、諦めないで繰り返し頑張ったり、できるようになることが嬉しくて、繰り返し取り組んだりする姿。

→そのために必要な、有効な援助

明確な目標の設定。どのような姿が「格好いい」のかに気付けるような働き掛け。

必要に応じて個別に指導し、できたという手応えを感じられるようにする。

特別な跳び縄を使うことで自信をもって取り組めるようにする。

対話的

- ・うまくできなくても諦めないで練習を頑張る友達の姿に気付くこと。
- ・頑張る姿や、努力した成果を見せ合って、認め合うこと。

→そのために必要な、有効な援助

学級のみならず取り組む時間の保障。頑張る様子を十分に認め、言葉にして発信すること。

次へのステップ 遊びや経験が次へつながり、深まるための構想は？

- ・自信のないことも頑張ったらできるという自信をもつこと→コツコツ努力で経験を積み重ねる！
- ・自分や友達の得意なことや好きなことを知り、生かして遊ぶ

話合いから

●一歩踏み出すために有効だった援助は？

- ・子どもたちの意欲や成長にあった場面で、跳び縄を個人持ちにしたこと。扱い方も丁寧に指導したことで、**特別な跳び縄**であるという意識をもつことに繋がった。
 - ・地道に毎日練習をすることで縄跳びが出来るようになった友達のことを学級で取り上げたこと。
- 「諦めないで頑張れば、絶対にできる！」
- ・**家庭の支え**（方向性・支え方の共通理解）も有効だった。家庭も巻き込んで練習したことで、より意欲的に取り組むことができた。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- ・目的をもって遊ぶこと。
- できるようになったことや出来るようになった自分を思い描きながら目的をもって遊ぶ。
- ・イメージした物を形にする。
 - ・チーム分けをして戦う遊びなどの経験。
 - ・やってみた、がんばった実感を思い出してチャレンジする経験。
 - ・相談したり、チームで物事を考えたり決めたりしながら遊べる遊び。

